

令和6年度長久手市行政評価票（A票：事業評価票）					対象年度		令和5年度		
事業番号	7	事業名	学生まちづくり活動支援事業 (大事業名) 大学連携事業		担当課		たつせがある課		
					予算区分（款-項-目-中事業）		2-1-9-5 学生まちづくり活動支援事業		
					決算書ページ		67 ~ 一般		
I 基本情報	総合計画	基本目標	1	「やってみたい」でつながるまち		事業開始の背景	市内4大学と締結した包括的連携協定や大学連携推進ビジョン4Uに基づき、市、大学間との連携を推進するため、長久手市大学連携調整会議を設置し、併せて市内4大学によるワーキングを実施している。		
		政策	2	「やってみたい」が実現できる仕組みづくり					
		施策	(2)	若者の想いを支える仕組みづくり					市民・民間事業者との連携協働の可能性
	その他	開始年度							
		終了予定年度		☐ 年度 ☒ 未定					
		根拠法令等							
	関連計画		大学連携調整会議設置要綱、大学連携推進ビジョン4U						
	アウトプット（詳細はⅡへ）					アウトカム（詳細はⅢへ）			
	①事業概要 (どんな取組を行うのか)			②活動指標 (取組の進捗をはかるもの。 また、それがどうなるのか)		③中間成果 (①【対象】がどのような 状態に変わるのか)		④最終成果 (大事業の将来像)	
	【対象】 ☒ 市民 ☐ 事業者 ☐ 職員 ☒ その他 対象の数： 約60,000 【事業内容】 市内4大学および周辺大学と連携し、大学の持つ知的財産や人材、学生の持つ若い力を生かすための仕組みづくりに取り組み、学生のまちづくり活動を支援します。			【アクションプラン指標】 大学連携事業実施件数 【その他の指標】		大学連携事業へ参加する市民の数が増加する。 (成果指標名) 大学連携事業への参加延べ人数		大 事 業 共 通 日常的に大学や大学生がまちに出てまちづくりに関わることで、地域の活力が向上するとともに市のイメージ向上に寄与する。	

Ⅱ 活動状況（アウトプットの詳細）

エピソード

活動指標名		単位	基準値（2018年） 目標値（2023年） ※AP指標のみ		区分	R5(2023) 年度	R6(2024) 年度	R7(2025) 年度	R8(2026) 年度	R9(2027) 年度
1	【アクションプラン事業】	件	基準値	23	見込	35	45	45	45	45
	目標値		-	実績	45					
	大学連携事業実施件数【単年】									
2	【その他指標】	人	基準値	-	見込	200				
	目標値		-	実績						
	運営に携わる市民の人数									
3			基準値		見込					
			目標値		実績					
4			基準値		見込					
			目標値		実績					
事業開始からの経緯										
長久手市大学連携推進ビジョン4Uに基づき、大学の専門性や特色を生かした活動を実施。 令和3年度にリモテラス公益施設が開館したことにより、大学連携の活動拠点となりつつある。このことで、大学や学生は自身の活動をPRする場となる一方で、地域の人は学生と交流する貴重な機会ともなり相互にメリットが享受できている。										
R5(2023)年度の実績、改善したこと。目標が達成できなかった場合はその理由										
各課の大学連携事業実施件数36件、4Uワーキング9件 その中で、市内4大学、長久手市国際交流協会、尾三消防本部、長久手市社会福祉協議会が連携して行った、防災サバイバルフェスは200名の来場があった。当日は、愛知県立大学が炊き出し、愛知医科大学が尾三消防本部によるAEDのサポート、愛知淑徳大学の学生が受付などの運営補助、愛知県立芸術大学の学生は参加していた外国人にヒアリング調査をするなど様々な関わり方ができた。										

Ⅲ 事業の成果・課題分析（アウトカムの詳細）	成果指標（CHECK）	成果指標名（中間成果をはかるもの）	単位	成果指標の推移と目標										
		大学連携事業への参加延べ人数	人	年度	▶	R4 年度	▶	【現状】 R5 年度	▶	R6 年度	▶	R7 年度		
					7, 394		集計中		8, 000					
		成果達成状況					指標目標値の根拠							
		B	A. 想定より良い B. 想定どおり C. どちらともいえない D. 想定を下回っている					各課提出の大学連携事業報告シート、4 Uワーキング活動報告書						
	評価の理由、分析													
	令和5年度は他課の記念事業と同時開催したこともあり、例年よりかなり参加者が増えたが、来年度は大きな行事との同時開催を予定していないため。													
	加える変化（ACTION）	今後の方向性（3年～5年先）		今後の方向性の理由										
		C	A. 現状維持 B. 拡充 C. 縮小 D. 廃止		市内4大学に一律額の委託契約にて実施してきた4 Uワーキングについて、4大学の足並みをそろえた事業実施が難しくなってきたことから、令和6年度より協働まちづくり活動補助金への申請に切り替えていく。									
		改善ポイント ※今後の方向性がAの場合は記入不要 (成果指標を踏まえ、総合計画基本目標達成のため、必要性、有効性、効率性、公平性、歳入確保の観点等から見直しの余地のある取組を記入)												
見直しの余地のある取組名		見直しの方向性	理由及び具体的な見直しの内容								見直し可能年度			
1		4大学合同事業運営委託	☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☒ 廃止	市内4大学に一律額の委託契約にて実施してきた4 Uワーキングについて、4大学の足並みをそろえた事業実施が難しくなってきたことから、令和6年度より協働まちづくり活動補助金への申請に切り替える。								R 6		

IV 費用	令和7年度予算の方向性（PLAN）	R7年度の費用（R6年度比）		3 年 間 の 推 移	(単位：千円)		R6(2024)年度	R5(2023)年度		R4(2022)年度		
		A	A. 現状維持 B. 拡充 C. 縮小 D. 廃止		事業費		予算	予算	決算	予算	決算	
						0	480	400	480	420		
		理由			特定財源	合計額						
		地域の課題を解決していくためには大学がもつ人材や知的財産を活かす必要があるため、引き続き事業を実施していく。				(内 国費)						
						(内 県費)						
						(内 諸収入)						
						(内 その他)						
					一般財源		0	480	400	480	420	
		積算額			R6年度予算の内訳 <細々節名、 予算額、（R5年度予算額）>							
未定												